

平成 29 年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所試験研究課題評価結果票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

| | | | | | | | |
|----------|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 番 号 | 29-事後-1 | | | | | | |
| 課題名 | 植物バイオマス生産性向上技術およびその管理技術の開発 | | | | | | |
| 課題の概要 | 農作物等の生産性や品質の向上をもたらすグルタチオンの役割を解明することにより農作物や樹木の生産力向上や高品質化に活用する技術を開発する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区 分 | 5 点 | 4 点 | 3 点 | 2 点 | 1 点 | 平均点 |
| | 目標達成度 | 3 人 | 3 人 | 人 | 人 | 人 | 4.5 |
| | 有効性 (効果) | 3 人 | 3 人 | 人 | 人 | 人 | 4.5 |
| | 有効性 (目的以外の成果) | 4 人 | 2 人 | 人 | 人 | 人 | 4.7 |
| | 効率性・妥当性 (費用対効果) | 2 人 | 3 人 | 1 人 | 人 | 人 | 4.2 |
| | 効率性・妥当性 (計画) | 1 人 | 4 人 | 1 人 | 人 | 人 | 4.0 |
| | 成果の活用・発展性 | 4 人 | 2 人 | 人 | 人 | 人 | 4.7 |
| | 総合評価 | 4 人 | 2 人 | 人 | 人 | 人 | 4.7 |
| 助言・指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> 普及活動について、今少し工夫がいると思えるし、その普及の為には、県費でもっと助成し、尚且つ県内農業者の活性化に役立つ方向を目指して欲しい。 安全性も考慮しつつ、機能性成分高含有素材の開発を期待する。 素晴らしい成果を多くの生産者が利用できるように、今後はグルタチオンを含有した製剤の普及に向けて企業や生産者との連携を深めて欲しい。 着実に事例データが蓄積され、グルタチオンが効きにくい場合の例を解析するとともに、効率的な処方方を的確に現場に伝えられるように進めて欲しい。 GSSGの効果のメカニズムの解明も期待している。 化石原料依存から脱却し、幅広く多目的に利用される大きい成果である。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|----------|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 番 号 | 29-事後-2 | | | | | | |
| 課題名 | 分子マーカーを用いた革新的育種技術の開発と新品種の育成 (1) | | | | | | |
| 課題の概要 | 植物工場での生産に適したトマトの新品種をマーカー支援育種により育成するとともに、生産効率を上げるための栽培技術を開発する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区 分 | 5 点 | 4 点 | 3 点 | 2 点 | 1 点 | 平均点 |
| | 目標達成度 | 1 人 | 3 人 | 2 人 | 人 | 人 | 3.8 |
| | 有効性 (効果) | 1 人 | 2 人 | 3 人 | 人 | 人 | 3.7 |
| | 有効性 (目的以外の成果) | 1 人 | 3 人 | 2 人 | 人 | 人 | 3.8 |
| | 効率性・妥当性 (費用対効果) | 1 人 | 3 人 | 1 人 | 1 人 | 人 | 3.7 |
| | 効率性・妥当性 (計画) | 1 人 | 2 人 | 3 人 | 人 | 人 | 3.7 |
| | 成果の活用・発展性 | 1 人 | 1 人 | 4 人 | 人 | 人 | 3.5 |
| | 総合評価 | 1 人 | 3 人 | 2 人 | 人 | 人 | 3.8 |
| 助言・指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> この研究成果が植物工場に主眼が置かれていることに、いささか不満を感じる。従来の生産者に対して、増収、高付加価値化に供する成果になり得ると思える。 コスト削減 (光照射コスト) の工夫が今後の課題と思う。 岡山TMT1号について、品種登録した以上は現場に使えるかどうかの判定を他の機関と共同しながら行うことを望む。現品種との比較で時には厳しい判断も必要である 新品種についてはニッチな市場での販売とともに、開発にあたって見つかった発見事実を他分野でも活用して欲しい。 今後、エネルギーコストと生産性がどうなるか見極める必要がある。 | | | | | | |

平成 29 年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所試験研究課題評価結果票

<事後評価>

- 総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

| | | | | | | | |
|----------|--|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 番 号 | 29-事後-3 | | | | | | |
| 課題名 | 分子マーカーを用いた革新的育種技術の開発と新品種の育成（2） | | | | | | |
| 課題の概要 | ブドウやモモの着色を左右する遺伝子を探し出し、遺伝子の違いを目印にして、新品種の育成に活用する技術を開発する。 ナスの台木品種の青枯病抵抗性を詳細に評価し、マーカーを開発する | | | | | | |
| 評価結果 | 区 分 | 5 点 | 4 点 | 3 点 | 2 点 | 1 点 | 平均点 |
| | 目標達成度 | 2 人 | 3 人 | 1 人 | 人 | 人 | 4. 2 |
| | 有効性（効果） | 2 人 | 3 人 | 1 人 | 人 | 人 | 4. 2 |
| | 有効性（目的以外の成果） | 3 人 | 2 人 | 1 人 | 人 | 人 | 4. 3 |
| | 効率性・妥当性（費用対効果） | 1 人 | 5 人 | 人 | 人 | 人 | 4. 2 |
| | 効率性・妥当性（計画） | 1 人 | 4 人 | 1 人 | 人 | 人 | 4. 0 |
| | 成果の活用・発展性 | 2 人 | 3 人 | 1 人 | 人 | 人 | 4. 2 |
| | 総合評価 | 2 人 | 4 人 | 人 | 人 | 人 | 4. 3 |
| 助言・指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 夢白桃も授粉作業を必要とする等、桃の生産拡大、消費拡大を図る為には、これから多くの新品種育成が必要である。この研究にはもっと力を投入して欲しい。 ・ 抵抗性誘導資材のメカニズム解明および抵抗性を示す植物の科や属などの特異性に関する研究の発展を期待する。 ・ 今後どのような形質を目指すかについては試験場以外の農家の団体（果樹研究会）などと直接生物科学研究所の研究者と話をすることも大事である。青枯病の方も今後の展開が期待できる。 ・ マーカー技術をベースにした特色ある桃の品種開発にも期待したい。 ・ 優良形質を集積した超優良品種の育成が期待でき、岡山県農業に大いに貢献する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|----------|---|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 番 号 | 29-事後-4 | | | | | | |
| 課題名 | 環境にやさしい革新的病害防除技術の開発研究 | | | | | | |
| 課題の概要 | 植物自信が持つ防御システムを活性化して病害を防除する環境負荷低減型農業資材（プラントアクティベーター）を開発する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区 分 | 5 点 | 4 点 | 3 点 | 2 点 | 1 点 | 平均点 |
| | 目標達成度 | 3 人 | 1 人 | 2 人 | 人 | 人 | 4. 2 |
| | 有効性（効果） | 2 人 | 3 人 | 1 人 | 人 | 人 | 4. 2 |
| | 有効性（目的以外の成果） | 2 人 | 4 人 | 人 | 人 | 人 | 4. 3 |
| | 効率性・妥当性（費用対効果） | 2 人 | 3 人 | 1 人 | 人 | 人 | 4. 2 |
| | 効率性・妥当性（計画） | 1 人 | 3 人 | 2 人 | 人 | 人 | 3. 8 |
| | 成果の活用・発展性 | 4 人 | 1 人 | 1 人 | 人 | 人 | 4. 5 |
| | 総合評価 | 3 人 | 2 人 | 1 人 | 人 | 人 | 4. 3 |
| 助言・指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 普及に対しての工夫が必要でないかと思える。 ・ 実用性の高い研究であるが、今後、特にメカニズムの解明に向けた研究に期待する ・ 着実な研究成果を挙げられている点は評価できる。 ・ 「植物を元気にする資材」は、その効果の大きさや複数の植物への利用可能性から、今後多方面での活用が期待される。 ・ 知財関係に関しては検討する必要があるかもしれない。 ・ 環境低負荷型の病害防除資材の開発・普及は、農業生産に貢献するとともに、今日求められる植物の保護、安全性に極めて有効である。 | | | | | | |

平成 29 年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所試験研究課題評価結果票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

| | | | | | | | |
|----------|---|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 番 号 | 29-事後-5 | | | | | | |
| 課題名 | 酵素によるバイオマス有効利用法の研究開発 | | | | | | |
| 課題の概要 | 放線菌から産出される酵素を用いて、未利用農林資源から機能性食品、化粧品素材、家畜飼料添加剤などの有用物質を創出する。 | | | | | | |
| 評価結果 | 区 分 | 5 点 | 4 点 | 3 点 | 2 点 | 1 点 | 平均点 |
| | 目標達成度 | 1 人 | 5 人 | 人 | 人 | 人 | 4. 2 |
| | 有効性 (効果) | 1 人 | 3 人 | 2 人 | 人 | 人 | 3. 8 |
| | 有効性 (目的以外の成果) | 1 人 | 5 人 | 人 | 人 | 人 | 4. 2 |
| | 効率性・妥当性 (費用対効果) | 1 人 | 2 人 | 3 人 | 人 | 人 | 3. 7 |
| | 効率性・妥当性 (計画) | 1 人 | 3 人 | 2 人 | 人 | 人 | 3. 8 |
| | 成果の活用・発展性 | 1 人 | 4 人 | 1 人 | 人 | 人 | 4. 0 |
| | 総合評価 | 1 人 | 5 人 | 人 | 人 | 人 | 4. 2 |
| 助言・指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・黄ニラは岡山県の特産品であり、黄ニラの需要拡大に続ける必要がある。 ・県産品の各種機能性成分やメカニズムに関する研究の進展に期待する。 ・黄ニラの研究については、応用的な部分と基礎的な部分をどう切り分けて進めるかを、従来の研究を踏まえつつ実施展開されることを望む。黄ニラの研究にも酵素研究の部分を含ませることが望まれる。 ・全国的な知名度を上げていく上で、この研究は大きな付加価値を与えると思われる。 ・早めの技術移転を期待している。 ・快眠誘導効果を含んだ機能性食材の早期開発が望まれる。米の有効活用、消費拡大につなげてもらいたい。 | | | | | | |